

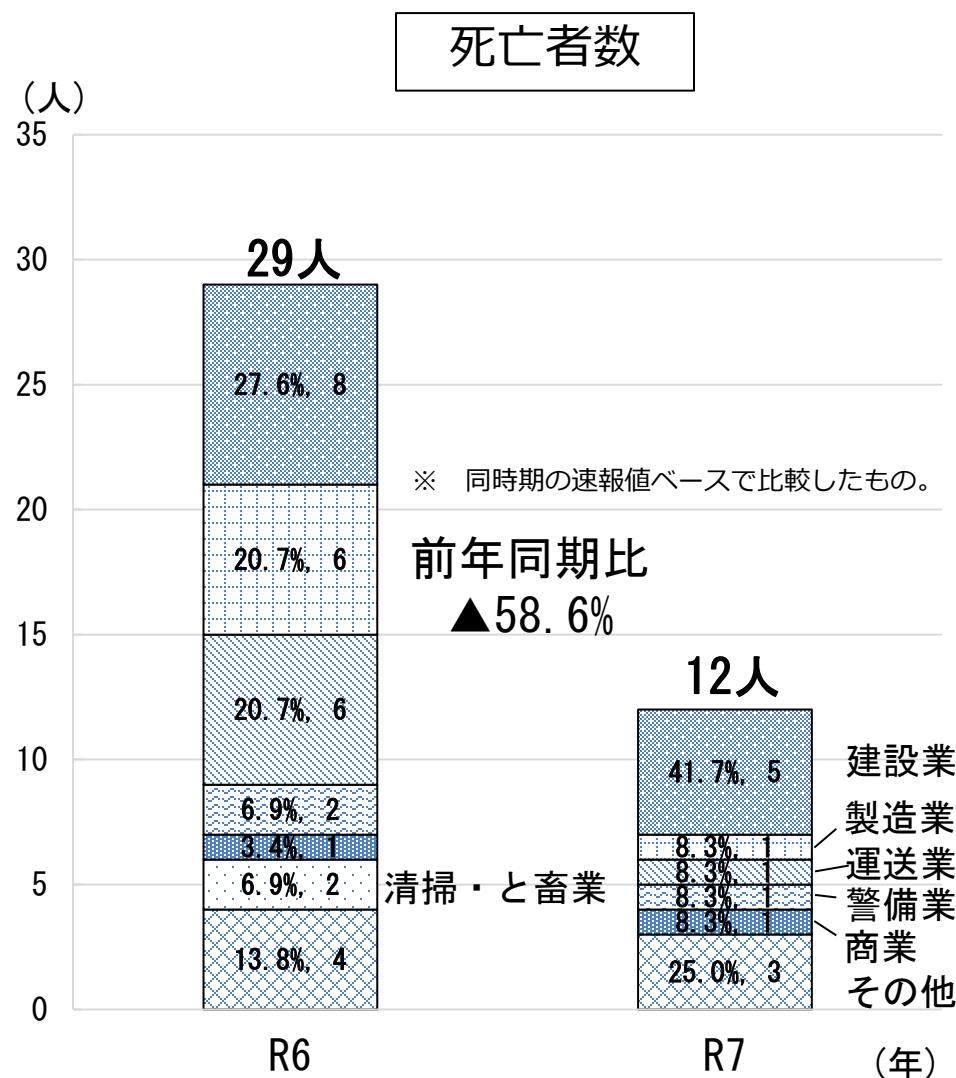


職場における熱中症の発生状況について

第1回 職場における熱中症防止対策に係る検討会資料

職場における熱中症による労働災害の発生状況 (令和7年10月末速報値・令和6年10月末速報値・業種別)

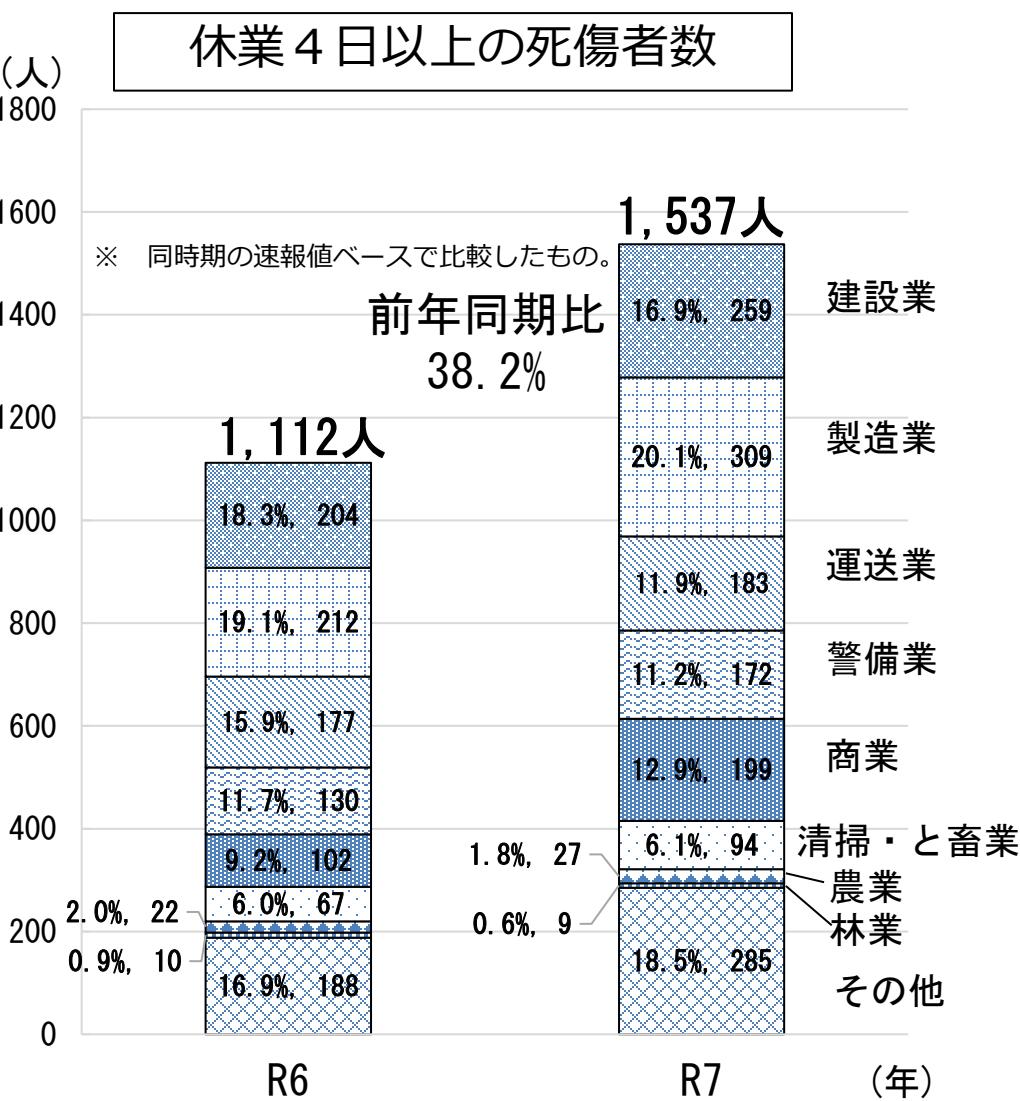
- ※ 令和6年10月末速報値は、令和6年1月1日から令和6年10月31日までに発生した労働災害について、令和6年11月7日までに報告があったものを集計したもの。
- ※ 令和7年10月末速報値は、令和7年1月1日から令和7年10月31日までに発生した労働災害について、令和7年11月7日までに報告があったものを集計したもの。



出典:労働者死傷病報告

※「死亡者数」のその他は、グラフ上に列挙された業種以外の業種の死亡者数を合計したもの。

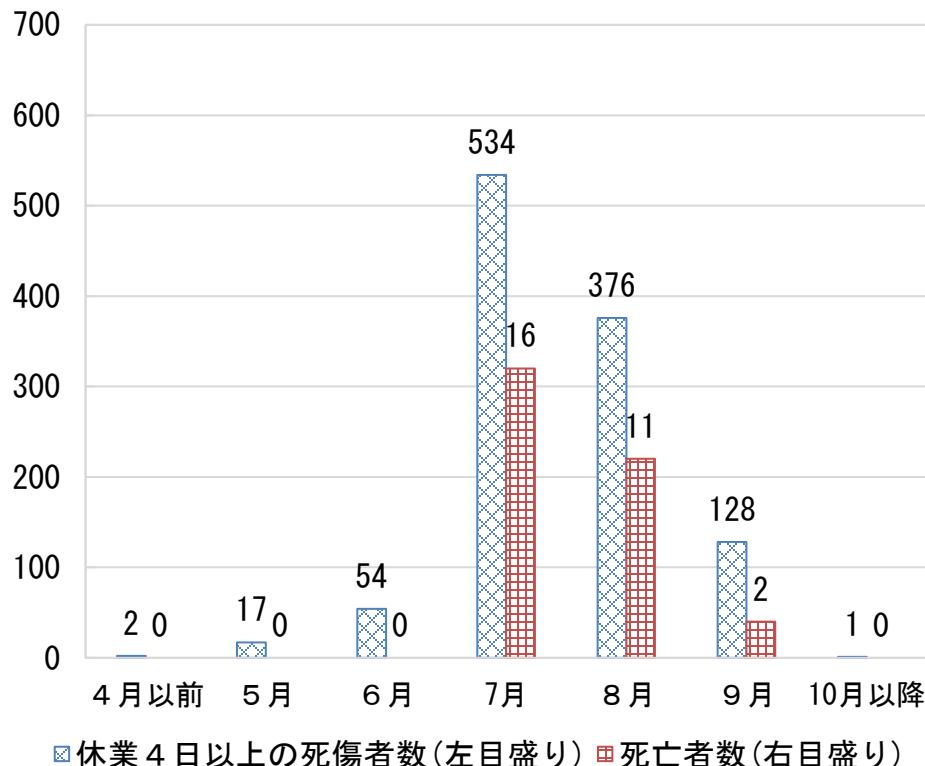
※「休業4日以上の死傷者数」のその他は、グラフ上に列挙された業種以外の業種の休業4日以上の死傷者数を合計したもの。



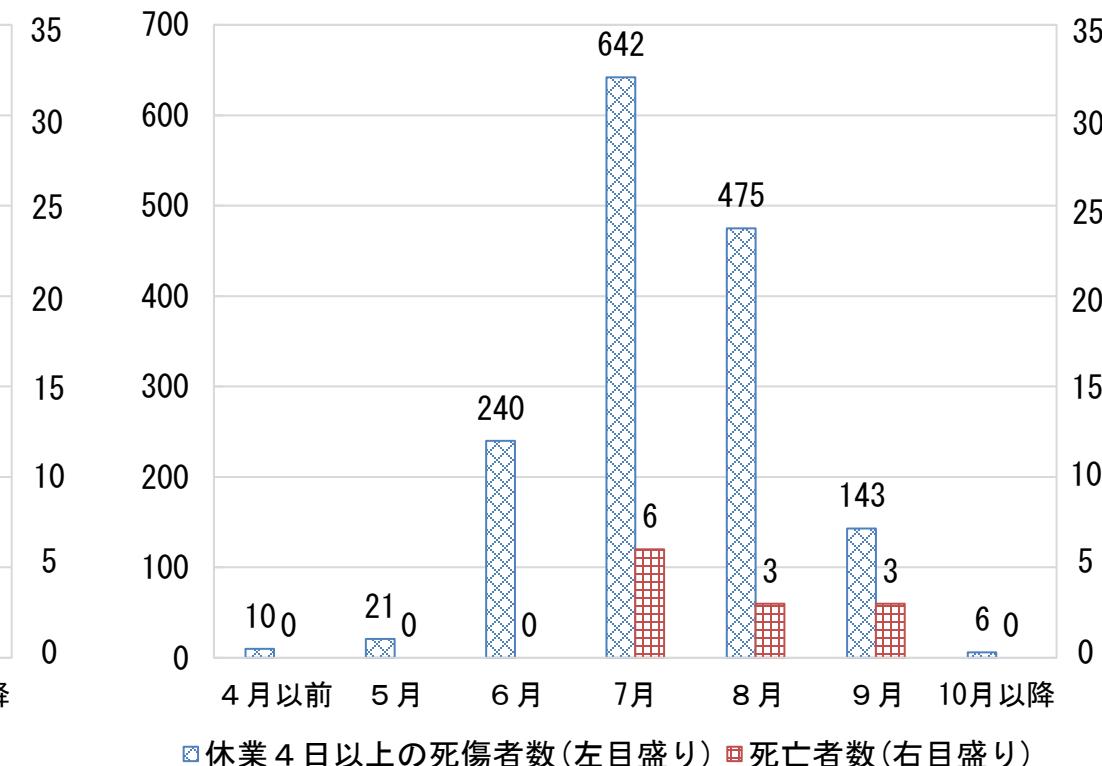
熱中症による月別死傷者数 (令和7年10月末速報値・令和6年10月末速報値)

- ※ 令和6年10月末速報値は、令和6年1月1日から令和6年10月31日までに発生した労働災害について、令和6年11月7日までに報告があったものを集計したもの。
- ※ 令和7年10月末速報値は、令和7年1月1日から令和7年10月31日までに発生した労働災害について、令和7年11月7日までに報告があったものを集計したもの。

令和6年
(10月末速報値)



令和7年
(10月末速報値)



出典: 労働者死傷病報告

(参考) WBGT28°C以上の時間・真夏日及び猛暑日の観測地点数・季節平均気温偏差

○東京都・月別WBGT28°C以上の延べ時間数

	5月	6月	7月	8月
2024年	0	23	243	276
2025年	3	88	244	243

○全国・月別の真夏日(30°C以上、上段)・猛暑日(35°C以上、下段)の延べ観測地点数

	5月	6月	7月	8月
2024年(真夏日)	622	4,040	15,111	19,163
2025年(真夏日)	638	7,772	20,504	19,330
2024年(猛暑日)	0	40	3,509	5,272
2025年(猛暑日)	1	490	4,566	4,329

○日本の夏(6~8月)の季節平均気温偏差の推移

	2022年	2023年	2024年	2025年
気温偏差(°C)	+0.91	+1.76	+1.76	+2.36

※各季節の平均気温の基準値(1991~2020年の30年平均値)からの偏差を示したもの。2025年は過去最高。偏差が大きかった年(1~5位)…1位:2025年、2位:2024年、2023年、4位:2010年(+1.08°C)、5位:2022年

(参考) 令和6年、7年真夏日日数

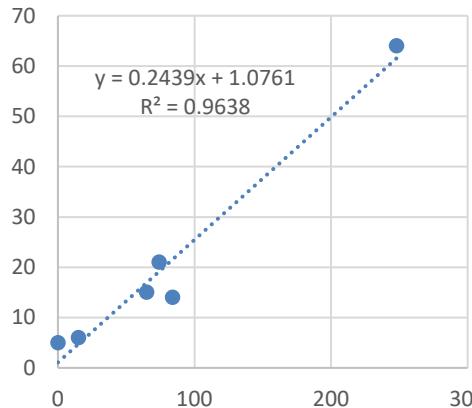
		6月	7月	8月	6~8月計
札幌	令和6年	2	8	8	18
	令和7年	6	18	11	35
仙台	令和6年	3	17	25	45
	令和7年	8	25	24	57
東京	令和6年	7	25	29	61
	令和7年	13	27	29	69
名古屋	令和6年	11	27	28	66
	令和7年	13	30	29	72
大阪	令和6年	10	26	29	65
	令和7年	14	30	31	75
広島	令和6年	5	22	29	56
	令和7年	12	29	28	69
福岡	令和6年	6	28	29	63
	令和7年	12	29	29	70

※真夏日(日最高気温30°C以上)の日数(単位:日)を表示

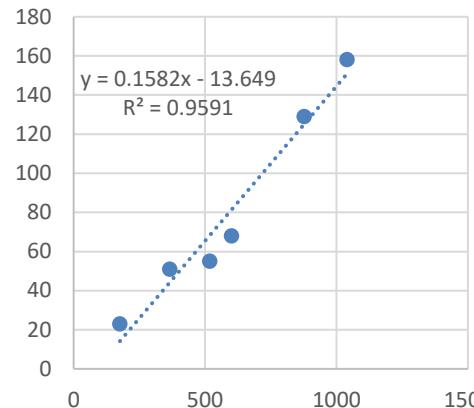
出典: 気象庁

(参考) WBGT値と熱中症による死傷者数の関係

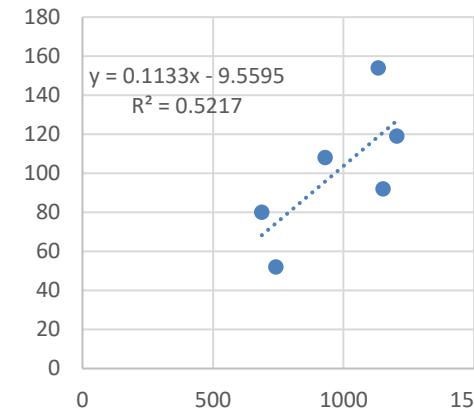
6月



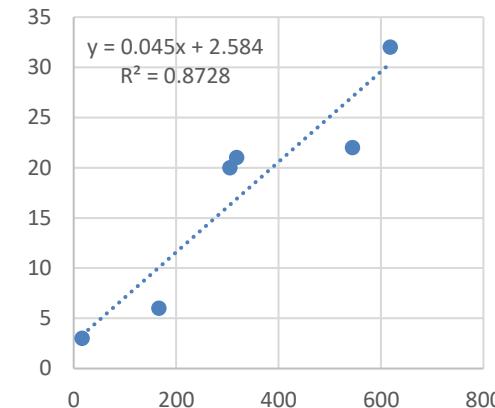
7月



8月



9月



	6月	7月	8月	9月
相関係数	0.9817	0.9793	0.7222	0.934

過去6年の6～9月におけるWBGT値28°C以上時間数と熱中症による休業4日以上の死傷者数の関係
(縦軸が死傷者数、横軸が時間数)

- 6月～9月における1都3県(埼玉県、千葉県、神奈川県)の県庁所在地のWBGT値が28°C以上の延べ時間数と熱中症による休業4日以上の死傷者数の関係としては、過去6年(2019年、2020年、2021年、2022年、2023年、2024年)については、8月以外では強い相関が見られる。
- 当該1都3県における6月、7月、9月の休業4日以上の死傷者数が、全国全期間の死傷者数に占める割合は約12.5%であり、これらを元に、当該1都3県の2025年のWBGT延べ時間数から逆算すると、2025年の全国全期間の死傷者数の予測値は1,855人と推計される。

(参考)算出式

$$0.2439 \times 297 (\leftarrow 2025年6月の1都3県の県庁所在地のWBGT値28°C以上の延べ時間数) + 1.0761 = 73.519 \cdots \text{6月の休業4日以上の死傷者数の予測値}$$

$$0.1582 \times 954 (\leftarrow 2025年7月の1都3県の県庁所在地のWBGT値28°C以上の延べ時間数) + 13.649 = 137.235 \cdots \text{7月の休業4日以上の死傷者数の予測値}$$

$$0.045 \times 426 (\leftarrow 2025年9月の1都3県の県庁所在地のWBGT値28°C以上の延べ時間数) + 2.584 = 21.7499 \cdots \text{9月の休業4日以上の死傷者数の予測値}$$

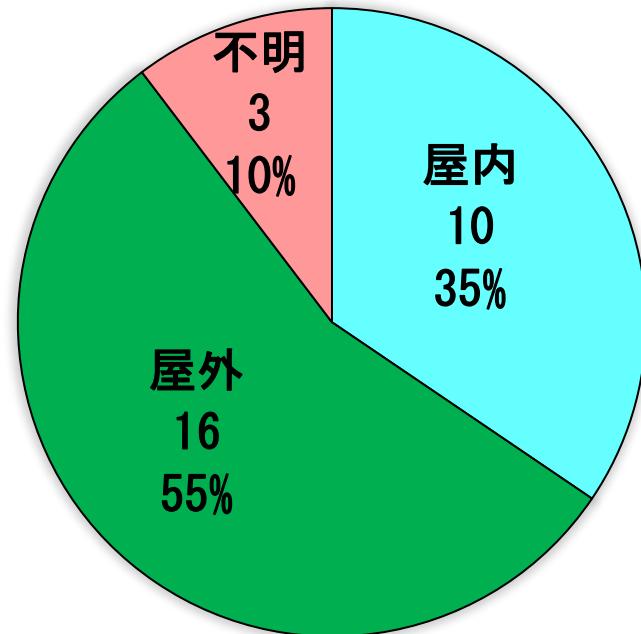
$$(73.519 + 137.235 + 21.7499) / 0.12535 = 1855$$

熱中症による屋内・屋外別死亡者数 (令和7年10月末速報値・令和6年10月末速報値)

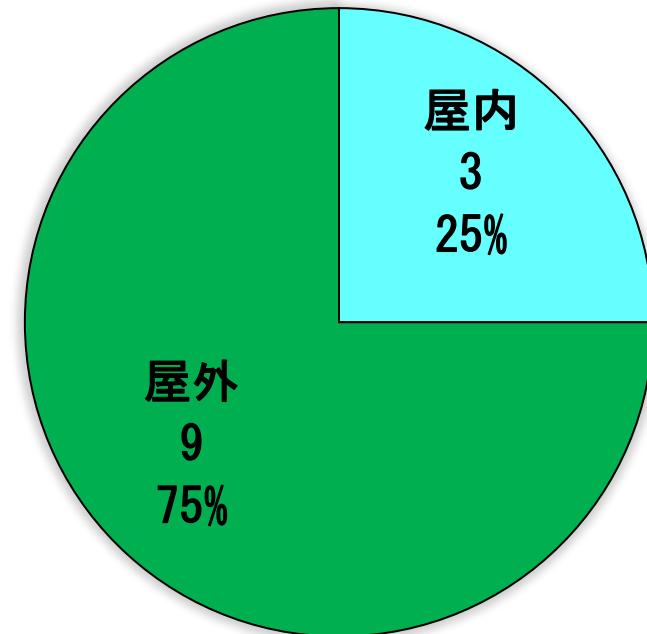
※ 令和6年10月末速報値は、令和6年1月1日から令和6年10月31日までに発生した労働災害について、令和6年11月7日までに報告があったものを集計したもの。

※ 令和7年10月末速報値は、令和7年1月1日から令和7年10月31日までに発生した労働災害について、令和7年11月7日までに報告があったものを集計したもの。

令和6年
(10月末速報値)



令和7年
(10月末速報値)



※令和6年の不明のうち2件は、令和6年の熱中症による死傷者数を精査する段階で、熱中症による労働災害ではないと判断されたものであり、詳細につき不明であるもの。

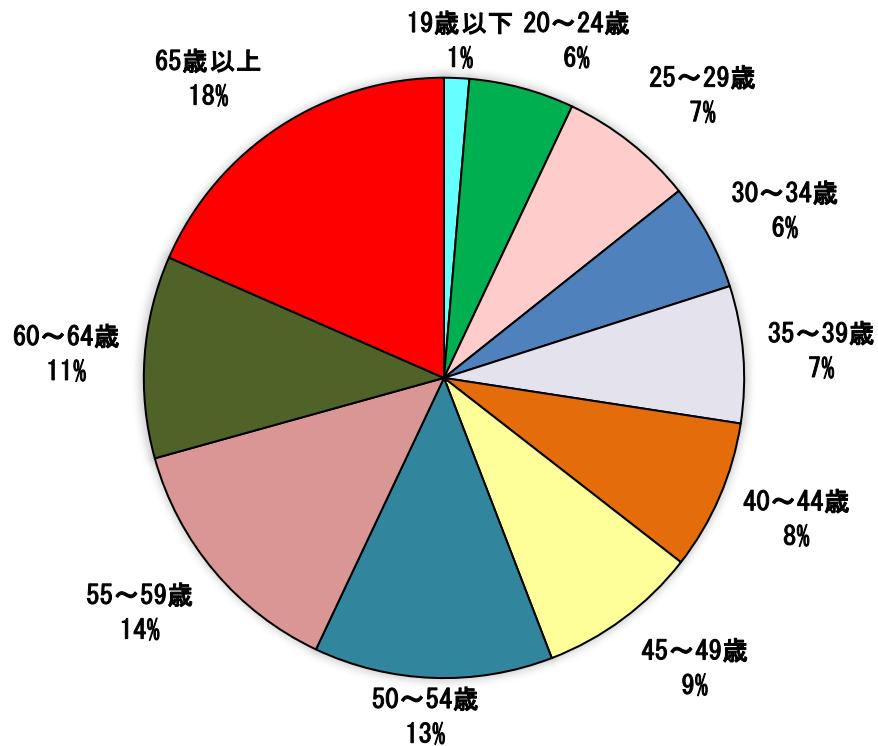
出典:労働者死傷病報告

熱中症による年齢別休業4日以上の死傷者数の割合 (令和7年10月末速報値・令和6年10月末速報値)

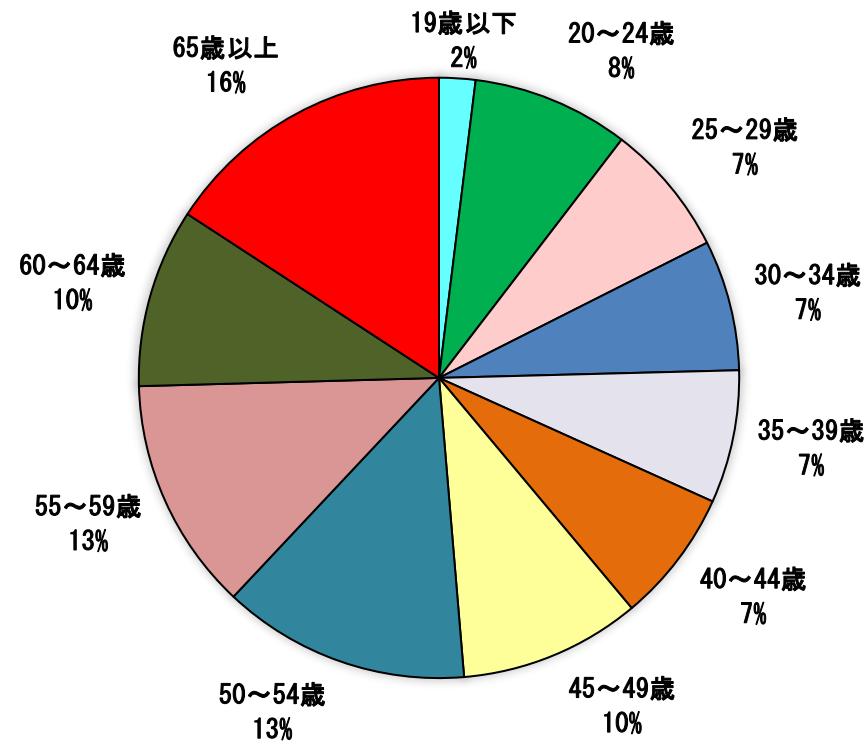
※ 令和6年10月末速報値は、令和6年1月1日から令和6年10月31日までに発生した労働災害について、令和6年11月7日までに報告があったものを集計したもの。

※ 令和7年10月末速報値は、令和7年1月1日から令和7年10月31日までに発生した労働災害について、令和7年11月7日までに報告があったものを集計したもの。

令和6年
(10月末速報値)



令和7年
(10月末速報値)



出典:労働者死傷病報告

死亡事例の概要（令和7年10月末速報時点）

番号	月	業種	年代	気温 (注1)	暑さ指数 (注2)	事案の概要
1(屋外)	7	警備業	50歳代	30.4°C	30.1°C	被災者は工事現場において警備作業に従事していた。13時頃体調に異変を感じたため、現場付近で休憩をとり、14時頃には一度現場に戻った。15時に所定の休憩時間のため作業を離れたが、休憩の15分を経過しても現場に戻らなかった。15時50分頃、現場から約670m離れた路上で倒れているところを通行人により発見され、救急搬送されたが死亡した。
2(屋外)	7	その他の広告・あつせん業	50歳代	32.1°C	26.8°C	被災者は新聞の営業を行うため、13時30分から営業エリア内を自転車で移動していた。18時頃、倒れているところを近隣の工事現場の者によって発見された。
3(屋外)	7	その他の土木工事業	50歳代	不明	31.4°C	被災者は住宅街にある緑地において、午前中から草刈り作業に従事していた。午後になり、ふらついているところを事業主に発見され、スポーツドリンク等を飲み休憩した。約15分後に様子を見に来た事業主によってトラックに乗せられ、エアコンをつけ休憩していたが、手が痙攣していたことから救急搬送されたものの死亡した。
4(屋外)	7	上下水道工事業	60歳代	28.7°C	25.8°C	被災者は新造する土場に別の土場から資材を運び入れる作業に従事しており、15時40分頃に作業を終えた。被災者には特段次の作業指示は出ておらず、その後の行動は不明であるが、18時頃に別件で当該土場を訪れた専務取締役に倒れているところを発見され、救急搬送されたが翌日死亡した。
5(屋外)	7	鉄道・軌道業	60歳代	29.9°C	27.1°C	被災者は朝から電車の線路沿いで除草作業に従事していた。昼休憩後しばらくして体調が悪くなつたため、上司の指示で冷房が効いた車内で休憩し、一旦体調は復調し、作業に復帰した。勤務終了後、再度、体調が悪くなつたため、冷房が効いた休憩室で休憩していたが、上司に意識不明の状態で発見され、救急搬送されたものの、死亡した。

(注1)気象庁ホームページで公表されている現場近隣の観測所における気温を参考値として示した。

(注2)環境省熱中症予防情報サイトで公表されている現場近隣の観測所における暑さ指数(WBGT)を参考値として示した。

死亡事例の概要（令和7年10月末速報時点）

番号	月	業種	年代	気温 (注1)	暑さ指数 (注2)	事案の概要
6(屋内)	7	鉄道車両・同部分品 製造業	60歳代	27.0°C	25.7°C	被災者は、工場内で新幹線の車両の組付けを行う作業に従事していた。作業場を一時離脱して作業場外で座り込んでいたところを、協力会社の作業員が発見して身体冷却等の措置を実施した。約1時間後、帰宅のためタクシーに乗車しようと立ち上がったところ、倒れ込み、救急搬送されたものの、3日後に死亡した。
7(屋外)	8	その他の 建築工事業	40歳代	33.8°C	31.8°C	被災者は道路除草工事において、除草作業補助として道路上の雑草の残りかすをブロワーで清掃する作業等に従事していた。作業中の15時30分頃に倒れ、救急搬送されたが死亡した。
8(屋外)	8	一般貨物 自動車運送業	50歳代	33.6°C	29.2°C	被災者はガソリンスタンドで、17時30分頃からタンクローリーに積載していた燃料油を地下タンクへ移送していた。20時44分頃にガソリンスタンドの従業員が確認したところ、被災者がタンクローリーの上で倒れており、救急車到着時には既に死亡していた。
9(屋外)	8	病院	60歳代	35.4°C	31.6°C	被災者は病院敷地内の園庭で、汚水ポンプの清掃作業に従事していた。作業場所から50m離れた場所で仰向けに倒れているところを、同僚に発見された。同院にて身体の冷却、点滴等を行い、総合病院に救急搬送したが、翌日死亡した。
10(屋内)	9	鉄骨・鉄筋 コンクリート造 家屋 建築工事業	50歳代	34.1°C	31.4°C	被災者は集合住宅の新築工事現場で、解体された壁型枠の材料を上階の同僚に手渡しする作業に従事していた。作業中に床に座り込んでいたところを同僚に発見された。意識はあり、水分補給をしてエアコンがある車内で休んでいたが改善せず、同僚の車で病院へ向かう途中に意識不明となり、救急搬送されたが死亡した。
11(屋内)	9	燃料小売業	50歳代	34.7°C	31.0°C	被災者は体調の悪い様子で事務所内の椅子に座っているところを発見された。その後、救急搬送されたが死亡した。
12(屋外)	9	道路建設 工事業	50歳代	33.5°C	31.5°C	被災者は道路改良工事現場において、午前中から型枠解体等の屋外作業に従事していた。昼休憩後から行われた現場内の片付け作業時に被災者の姿が見えなくなり、同僚らが被災者を探したところ、15時30分頃に冷房が効いた軽トラックの車内で倒れた状態で発見された。発見後、病院へ救急搬送されたが、2日後に死亡した。

(注1)気象庁ホームページで公表されている現場近隣の観測所における気温を参考値として示した。

(注2)環境省熱中症予防情報サイトで公表されている現場近隣の観測所における暑さ指数(WBGT)を参考値として示した。